

壁の木



健康で心ゆたかな子 深く考えくふうして学ぶ子 進んではたらく子

9月号 杉並区立杉並第六小学校 <http://www.suginami-school.ed.jp/sugi6shou/>

「共に、小さな一歩を！」

校長 守田 聰美

新学期が始まりました。どの教室でも子供たちが楽しい夏の思い出話に花を咲かせていました。この夏をどのように過ごされましたでしょうか。

私事で恐縮ですが、私は20年振りに家の片付けをしました。実は、家族に呆れられるほど「大切にとっておくタイプ」です。10年前にも、片付けにチャレンジしましたが、思い出に浸って終わりました。私にとって「どれも大切な物」だったのです。しかし、今回は違います。「大切なのはよく分かる。でも、家の中に入るだけにしたら？！」という家族の一言に『なるほど・・・確かに。』と素直に納得。まる5日間、文字通り朝から晩まで、一心不乱に片付けました。思い出の品々を見ることで、温かい気持ちになんでも結局「思い出」は心の中にある。家の中に入るだけの「大切な物」を丁寧にしました。片付けのお蔭で、日常生活が快適になりました。

去る7月17日「阿佐ヶ谷中学校区地域教育連絡協議会」では、3校（阿佐ヶ谷中学校、杉七小、杉六小）管理職、PTA役員、青少年委員、阿佐ヶ谷中学校区の地域の方々、関係機関の皆様と一緒に「学校行事って何だろう～過去、今、これからからの視点で見直してみる～」と題し、学校行事の棚卸について協議する試みがありました。

各グループで次々と語られる学校行事の思い出は様々でした。心に残る行事場面は、必ずしも本人が活躍した行事の思い出ばかりではありません。

何十年もの時を遡り、今に至る過程を振り返ると、そこに居る誰もが、人と人との関りや繋がりの中で成長してきたことに気づきました。

中でも「運動会」という世代を超えて語れるほど「当たり前」を疑うことを通して見えてきたこと、それは「人が成長するために必要なことは何か」「教育とは何か」という時代を超えた本質でした。

私たちは「学び」というと「何を学ぶか」そして、「何ができるようになるのか」「何が分かるようになるのか」にとらわれがちです。それらは目に見えるからです。とても大切です。しかし、今回の協議を通して私たちが社会で生きる上で大切なことはそればかりではないということを改めて気づかされたように思います。

杉六小でも、来年度から教育活動の棚卸を始めます。「学校」という時代を超えた「当たり前」を見直し「学校」に収まるだけの教育活動にします。

そうすることで、子供たちが、教職員が、より充実した教育活動を実現できると考えるからです。ただ、小さな我が家家の片付けでさえ5日間もかかったのですからそう簡単にはいきません。そして、教職員だけでは「棚卸」は難しいと考えています。なぜなら、教職員が「どれも大切にしてきたこと」だからです。そこで、本校がコミュニティースクールになった折に、学校運営協議会で熟議を重ね丁寧に吟味していきたいと思います。その時、私たちは「人の成長にとって大切なこと」「人が幸せになるために必要なこと」を物差しにして判断していかなくてはならないと考えております。

1969年7月20日、50年前の夏。人類は初めて月に降り立ちました。今では「当たり前」のことですが、かつての人類の常識では不可能だと考えられていたことです。不可能という常識を打ち破り40万人が、月着陸を信じて夢を叶えました。

杉六小は、学校と保護者、地域の方々が「共に子供を育てる」新たな時代の「学校」創りを目指しております。難しいことかもしれません、保護者、地域の方々が、一歩一歩、共に歩んでいただけることを願っております。2学期、学校と保護者、地域の方々が協働する行事が続きます。新たな「学校」創りの小さな一歩に、ご協力を願いいたします。